

ピリピ人への手紙 1章 27～30節 キリストのための苦闘

今日は新約聖書からピリピ人への手紙 1章 27～30節の聖句を見ていきます。

ピリピ人への手紙 1章27～30節

27. ただキリストの福音にふさわしく生活しなさい。そうすれば、私が行ってあなたがたに会うにしても、離れているにしても、あなたがたについて、こう聞くことができるでしょう。あなたがたは霊を一つにして堅く立ち、福音の信仰のために心を一つにしてともに戦っていて、

28. どんなことがあっても、反対者たちに脅かされることはない、と。そのことは、彼らにとっては滅びのしるし、あなたがたにとっては救いのしるしです。それは神によることです。

29. あなたがたがキリストのために受けた恵みは、キリストを信じることだけでなく、キリストのために苦しむことでもあるのです。

30. かつて私について見て、今また私について聞いているのと同じ苦闘を、あなたがたは経験しているのです。

この書簡の大まかな歴史的背景と詳細を見てみましょう。神からの幻への応答として、使徒パオロは使徒行伝 16章に記された彼の2度目の宣教旅行において、アレキサンダー大王の父であるマケドニアのピリポ二世の名前からピリピと名付けられた都市にヨーロッパで初めての教会を設立しました。ピリピは戦略上重要な位置にあることから、ローマ帝国の植民地と言う地位を、地方都市としてはこれ以上ない最高の地位を授けられました。したがって、ピリピ人にはローマ市民が有する特権が約束されていました。つまり、彼らは資産を購入することができ、一定の税金の支払いを免除されていました。これらから、ピリピは豊かな都市で、多くのピリピ人は裕福であったと結論づけることができるでしょう。パオロのこの書簡を書く目的の一つはピリピ人への手紙 4章 18節で見る彼らの贈与に対し、ピリピの教会に感謝することでした。

今日の聖句に取り組むと、神がわたしたちに福音を広め発展させるためにどのような犠牲的な生き方を追求することを望まれているかを知ることができます。そして同時に教会として、またそれぞれ個人として、すべてが不確実な中、どんな状況下でも、どんなに生活が困難であろうと主にあって平安のうちに生きることができます。そして、私たちのうちに宿り聖霊の力によって私たちはしっかりと信仰の上に立ち、苦しみや迫害の最中でもよい信仰の闘いを戦うことができます。

ところで、罪がこの世に入り込んだので、イエス様の再臨まで私たちは不確実の中を生き続けると私は信じています。聖書は私たちが墮落した世に住んでいると言っています。

27節は、ピリピの書簡の最初の命令を与えています。こう言っています。

ただキリストの福音にふさわしく生活しなさい。 この聖句はわたしたちに相応しく振る舞うように、キリストを実証する良き市民としての生活を送るよう命じています。パオロはピリピ人に、そして私たちにも、その地の法律に従うこの世の良き市民としてだけではなく、より重要なことは天の国の市民として生きよう、聖書の原理に沿って生きよう備え、福音と同じ信仰の信者のために生けるいけにえとして自分たちの体を献げるように伝えています。犠牲の中には、この世での私たちの特権や権利を手放すことかもしれません。多くの国籍や多様な文化からなっている教会では、派閥や誤解が生じます。しかし、私たちはみな天の国の市民であると分かり合っていれば、一致することができます。

神は私たちにどこにいても、誰であろうとも、誰といようと、どこでも、家庭、職場、一人であろうと誰かと一緒であろうとも天の国の市民として生きることが望まれています。福音を分かち合うことは、気まぐれやあなたの気分次第であってはなりません。それは日々の日課であるべきです。パオロに倣いましょう。ピリピ人への手紙 1章 21節でパオロは言っています。

"私にとって生きることはキリスト、死ぬことは益です。 彼は生きるべきか死ぬべきかも分からなかったのです。彼はそれほど福音を愛していたのです。彼はキリストといることを選ぶのか、クリスチャンといて彼らを助けることを選ぶのか、その選択に迫られていました。ここで、私たちが神を愛していれば、私たちは互いに愛し合うべきであることを見ることができます。

あなたは神を愛していますか。あなたの同胞の扱い方からそれが見えるでしょうか。あなたは彼らが助けが必要な時、あるいはひどく扱われた時、どのように応答しますか。

この命令をクリスチャンとしてのわたしたちの生活に当てはめる時、私たちは毎週の日曜礼拝の出席や奉仕への関与によっても定義されるべきではありません。私たちの振る舞いはイエス・キリストの命と御業を反映すべきです。

わたしたちのいごごちの良い安全領域から出る必要があるかもしれません。パオロのように、キリストの命が私たちの生活の中心にあるべきです。私たちの証、行動、言葉と態度は教会の内でも外でも清廉潔白であるべきです。

ピリピ人への手紙 3章 20節

"しかし、私たちの国籍は天にあります。そこから主イエス・キリストが救い主として来られるのを、私たちは待ち望んでいます。"これゆえに、私たちの焦点は私たちにここで目に見えるもの、所有できるものではなく、全員が誠実で真理の証人であり裁かれる方であるイエスの前に吟味されるためにキリストの日に立つが天の国の市民である私たちの焦点であるべきです。ですから、私たちの市民権が天の国にあるならば、コロサイ人への手紙 3章 2節によれば

"上にあるものを思いなさい。地にあるものを思ってはなりません。"

私たちは定年退職後の計画をよく立てます。個人的には私の母国であるフィリピンで引退生活を送りたいと願っています。私はフィリピン国民です。しかし、天の国の市民として私たちはどのような定年後の計画を立てているのでしょうか。どのようにそのために準備をしているのでしょうか

ですから、パオロはすさまじい苦しみや数えきれないほどの暴力にも拘らずこの世の寄留者である彼を誰かが天上で受け入れるために待っていると心で信じて喜びをもって耐えることができたのです。

パオロは確信を持ってこう言います。"私にとって生きることはキリスト、死ぬことは益です。

この世のものを愛して私たちに何の益があるのでしょうか。ヨハネの手紙 第一 2章 15節はこう言います。

"あなたがたは世も世にあるものも、愛してはいけません。もしだれかが世を愛しているなら、その人のうちに御父の愛はありません。"

使徒パオロは私たちにこの世のパターンに追従してはならないとさえ言っています。ローマ人への手紙 12章 2節で言っています。"この世と調子を合わせてはいけません。むしろ、心を新たにすることで、自分を変えていただきなさい。そうすれば、神のみこころは何か、すなわち、何が良いことで、神に喜ばれ、完全であるのかを見分けるようになります。"あなたの人生における神の御心を知りたければ、あなたの心を神に集中してください。私たちクリスチャンは日々周りに向けて私たちの内の贖われた本質を明白に示さなければなりません。わたしたちの人生の振る舞いは私たちの天の国の市民権を示さなければなりません。

ですから、エペソ人への手紙 4章 23~24節が言うように私たちの心を整えましょう。

23. また、あなたがたが霊と心において新しくされ続け、

*24. 真理に基づく義と聖をもって、神にかたどり造られた新しい人を着ることでした。"*ただ私たちの牧師、聖書研究会教師、そのほかの指導者や信者仲間など、他の人たちの前だけではなく、たとえ誰も私たちがすることを見ていなくとも、私たちは天の国の市民がすべきことをするべきです。鬼の居ぬ間に洗濯と言う諺があります。私たちは鬼を恐れる者ではありません。私たちは神のみを畏れる彼の民です。私たちの信仰と一致した生活を送りましょう。私たちは、二重人格者のようではなく、常にクリスチャンとして行動しましょう。どんなに無防備な時でも私たちは常にイエス・キリストを信じる者、誰もに永遠の命をもたらす福音を分かち合う福音の聖火ランナーとして備えるべきです。

ピリピ人への手紙 2章 12~13節は言います。12. *こういうわけですから、愛する者たち、あなたがたがいつも従順であったように、私がともにいるときだけでなく、私がいなくても従順になり、恐れおののいて自分の救いを達成するよう努めなさい。* 13. *神はみこころのままに、あなたがたのうちに働いて志を立てさせ、事を行わせてくださる方です。*聖書は私たちに、特に生活の利便性を欠く時にキリストの心を持つよう、そして私たちの救いを得るために働くのではなく、私たちの救

いを発展させ成就させるために主の召しに正しく応えるよう教えています。今一度言わせてください。私たちの救いを得るために努力するのではありません。その大いなる救いの賜物から豊かな喜びを十分に得るために完全に開けなければどうしてを楽しむことができるでしょうか。わたしたちの救いの賜物を開けるためには神が私たちになさって下さったことに信頼と従順で応えるのです。それを開けることによって私たちは教会としてまたは個人的に救いの美しさ、解放された喜びと福音を分かち合うことができる力を味わうことができます。

問題はそれをどう行うかです。生活の困難、増大する家族の必要、この世の物質主義を考えれば、もちろん一人ではできません。私たちは神を必要としています。キリストにおける兄弟姉妹を必要としています。私たちの生活で福音を成就するには皆が寄り添って働くために霊の一致が必要です。ピリピ人への手紙の書から学べるテーマの一つが福音を分かち合うための協力関係であることを知っていますか。パオロはピリピ人への手紙 1 章の 27 節で続けます。 *そうすれば、私が行ってあなたがたに会うにしても、離れているにしても、あなたがたについて、こう聞くことができるでしょう。あなたがたは霊を一つにして堅く立ち、福音の信仰のために心を一つにしてともに戦っていて、*ここで使徒パオロはわたしが福音に相応しい人生を生きることを確かにする方法を示しています。私たちは霊の一致を持って一つとなりしっかりと立たねばなりません。一致した心で強くあり続けるのです。つまり、聖霊が私たちの内にあれば人生の嵐も、福音伝道や礼拝の多くの課題も、教会としてまた個人として私たちのイエスの信仰への攻撃や直面する様々な迫害に耐えることができます。私たちは確固たる決意で変わらない信仰でほかの信者との協力関係と重荷を分かち合うことによってきっぱりと福音の真理を守るべきです

27 節の最後の部分でパオロはピリピ人にそして私たちに一致を強く提唱しています。私たちは寄り添って戦わなければなりません。ギリシャ語のスナテオからここでの戦うは、パオロが全員が運動競技で競い合っている描写をしています。信仰と神の御言葉の発展のために彼はピリピ人に共に一丸となって戦い、協力し合い、守り合い、助け合う運動選手のチームとして競うよう励ましています。そして、いま一つ福音に相応しい生き方のしるしは一流運動選手のような耐久力、決してあきらめない姿勢、集中、決意とチームとして勇気を喚起するのです。個人としては、あなたと私は神が私たちに与えられた様々な賜物によって福音の信仰のための闘い方は異なるかもしれません。奉仕すること、教えること、リーダーとして指導すること、とりなしのために祈ること、施しをする事、慈善を行うこと、励ますこと、など多くあります。たとえ何であろうとも私たちはそれぞれが、福音の推進と教会と互いを建て上げるために聖霊が私たちに用いることを望まれている特別なあなただけの能力が与えられています。

ピリピ人への手紙 2 章 16 節

"いのちのこばをしっかりと握り、彼らの間で世の光として輝くためです。そうすれば、私は自分の努力したことが無駄ではなく、労苦したことも無駄でなかったことを、キリストの日に誇ることができる。" ピリピ人への手紙 3 章 2 節で私たちは警告されています。

"犬どもに気をつけなさい。悪い働き人たちに気をつけなさい。肉体だけの割礼の者に気をつけなさい。" ヨハネの黙示録 22 章 15 節もまた言います。

"犬ども、魔術を行う者、淫らなことを行う者、人を殺す者、偶像を拜む者、すべて偽りを好み、また行う者は、外にとどめられる。" ヨハネの福音書 10 章 10 節

"盗人が来るのは、盗んだり、殺したり、滅ぼしたりするためにほかなりません。わたしが来たのは、羊たちがいのちを得るため、それも豊かに得るためです。"

主はエレミヤに言われました。 エレミヤ書 1 章 7 節

*"主は私に言われた。「まだ若い、と言うな。わたしがあなたを遣わすすべてのところへ行き、わたしがあなたに命じるすべてのことを語れ。"*そして、イエスは彼の弟子たちに言われました。

マタイの福音書 10 章 16 節

"いいですか。わたしは狼の中に羊を送り出すようにして、あなたがたを遣わします。ですから、蛇のように賢く、鳩のように素直でありなさい。" 福音のためにしっかりと立っていると脅しや困難、

パオロのように激しい苦しみにさえ出合うこともあるかもしれません。しかし、勇気を持ちなさい。神は御臨在を約束されています。主は決して私たちを見放すことも、見捨てられることもないと約束されました。

聖句は進む時、パオロはたくさんのオオカミや犬があなたの無防備な瞬間の完璧なタイミングを見計らってあなたと教会を生涯のどん底の時期に襲いかかろうと待っています。ですから、28節は私たちに恐れるなど言っているのです。私たちは攻撃的な構えや姿勢をとるべきです。

戦いは簡単ではありません。きつく、本当に厳しいものです。私たちはクリスチャンとしての旅路の人生航路で苦難を覚悟し受け入らなければいけません。しかし、神は、ヨハネの黙示録 21章7節で約束されています。

"勝利を得る者は、これらのものを相続する。わたしは彼の神となり、彼はわたしの子となる。"

今日の聖句の次の3節を読みましょう。28-30節。28. *どんなことがあっても、反対者たちに脅かされることはない、と。そのことは、彼らにとっては滅びのしるし、あなたがたにとっては救いのしるしです。それは神によることです。*

29. *あなたがたがキリストのために受けた恵みは、キリストを信じることだけでなく、キリストのために苦しむことでもあるのです。*

30. *かつて私について見て、今また私について聞いているのと同じ苦闘を、あなたがたは経験しているのです。*

28節でパオロはおびえないようにと私たちを励まします。私たちの内なる聖霊の力によってもたらされた私たちの大胆さ、私たちの強い意欲と集中は私たちの敵の破壊と私たちの勝利を確実にします。詩篇 23篇 1~6節を思い出してください。

1. *主は私の羊飼いです。私は乏しいことはありません。*

2. *主は私を緑の牧場に伏させいこいのみぎわに伴われます。*

3. *主は私のたましいを生き返らせ御名のゆえに私を義の道に導かれます。*

4. *たとえ死の陰の谷を歩むとしても私はわざわいを恐れませんが、あなたがともにおられますから。あなたのむちとあなたの杖それが私の慰めです。*

5. *私の敵をよそにあなたは私の前に食卓を整え頭に香油を注いでくださいます。私の杯はあふれています。*

6. *まことに私のいのちの日の限りいつくしみと恵みが私を追って来るでしょう。私はいつまでも主の家に住みます。"*

最後に、苦難を恐れてはなりません。それは実は神からの賜物なのです。ある説教者、確かジョン・パイパー師だと思えます、が言いました。あなたがクリスチャンでありながら苦しんだ経験がなかったとしたら、あなたは実際クリスチャンなのか自問する必要があります。なぜならば、苦難はクリスチャンであることの一部だからです。聖書は苦難について語っています。事実、苦難のうちに喜ぶことについて語っています。

ペテロの手紙 第一 4章 12~13節は言います。

12. *愛する者たち。あなたがたを試みるためにあなたがたの間で燃えさかる試練を、何か思いがけないことが起こったかのように、不審に思っははいけません。*

13. *むしろ、キリストの苦難にあずかればあずかるほど、いっそう喜びなさい。キリストの栄光が現れるときにも、歓喜にあふれて喜ぶためです。*

テモテへの手紙 第二 2章 11~12節

11. *次のことばは真実です。「私たちが、キリストとともに死んだのなら、キリストとともに生きるようになる。*

12. *耐え忍んでいるなら、キリストとともに王となる。キリストを否むなら、キリストもまた、私たちを否まれる。*

試練と苦難はとても現実的で確かです。信者も未信者も同様に生存のために戦います。教会も例外ではありません。多くの教会は寂しさに包まれています。交わりや聖書勉強は限定的です。私たちはい

ずれにせよ孤独を感じます。平均的な労働者にとって生活は厳しいです。自衛本能のために利己主義が増えています。私たちの敵は私たちの救い主がすべての痛みと苦しみを終わらせるために間もなく来られるので、パニック状態です。

ですから、パオロは全員が主の御名の栄光を賛美する最終勝利を待つ間にすべきことを思い出させてくれているのです。すべての者がイエスの御名にひざまずき、すべての舌が、ハレルヤ！いと高き所にホサナと歌います。信仰のために恐れを知らない心と一致によってしっかりと立ち、戦い、福音のために従事して苦しむ備えができていたキリストの福音に相応しい立ち振る舞いに生きてください。ヨハネの黙示録 22章12～13節

12. 「見よ、わたしはすぐに来る。それぞれの行いに応じて報いるために、わたしは報いを携えて来る。

13. わたしはアルファであり、オメガである。最初であり、最後である。初めであり、終わりである。」

神はキリストイエスを信じる者たちが永遠に満足する大いなる報いの約束をお持ちです。今日、私たちはイエス・キリストから来る大いなる報いを待ち望む時、皆さんにキリストの体として一体となり、福音を分かち合うことにそれぞれが従事するよう強く勧めます。あなたの人生を天の国の市民として生きてください。あなたの証、行動、言葉はあなたの周りの人たちに福音伝道するための道具です。まだキリストに応答なさっていない方々、いまここで、神はあなたに神と共に分かち合う人、神の協力者となりあなたも神の与えた人生を楽しむことができるよう呼ばれています。招かれています。そうするための唯一の方法はイエス・キリストに応答することです。神はあなたに今恵みの御手を差し伸べています。イエスをあなたの主として救い主として受け入れてください。祈りましょう。